

第 5 期

報 告 書

〔 平成 25 年 4 月 1 日から
平成 26 年 3 月 31 日まで 〕

一般財団法人 日本ドッジボール協会

2013 年度事業報告

一般財団法人として発足し 5 年が経過致しました。年度当初からの公益財団法人日本体育協会への正式加盟にあたり、課題の一つとして求められていた中学生～社会人を対象とした日本選手権は、アジア連盟主催による第 1 回アジアカップとの同時開催という形で実現しました。まだ多くの面で小学生の競技会には及びませんが、各世代の総合選手権実施に向けての大きな一歩を踏み出しました。

また、もう一つの課題となっており、真の生涯スポーツと競技スポーツの実現には避けては通ることができない公認指導者の育成に向けては、専門委員会の発足及び養成事業を開始しました。講習会の必修単位には、これまで実施している親子を対象としたドッジボール教室をフォーマット化して組み込むなど、委員会毎の事業という枠を超えて、新たな連携も進めています。

1. 全国大会実行委員会

全国大会（夏・春、小学生対象）

夏は東京体育館、春は愛知県の本ガイシホールでの開催となった。

まず、夏の大会は、公益財団法人日本スポーツ振興センターが実施しているスポーツ振興基金の助成を今年度より受けて開催した。2012 年度が改修期間だったため 2 年ぶりの東京体育館開催であったが、関東ブロック各都県協会の支援を受け、滞りなく運営する事ができた。

参加チームについては、男子女子混合小学生チーム（D1）は例年どおり各都道府県代表 48 チームが参加したが、女子小学生チーム（D1G）は 44 チームとなり、女子大会については今回も全都道府県において代表チームを選出するという目標には届かなかった。依然として女子チーム普及状況は偏っていること、また、男女混合チームと重複して活動を目指す選手も多いことから、開催方式を見直し、2014 年度からは女子大会の開催を独立することとした。

次に春の大会については、公益財団法人 JKA（競輪）の補助事業として支援を受け、夏に続き 2 年ぶりに愛知県名古屋市の本ガイシホールで開催した。こちらは例年どおり両大会とも 9 ブロック代表 32 チームずつの参加となった。運営面では、今大会での初の試みとして、日本代表選手を招集しデモンストレーション試合の実施や小学生選手との交流の機会を設けた。結果として代表選手が各協賛企業ブースの手伝いを担当した際は行列ができるなど、関心が高いことが改めて確認された。

また、開会式では地元の名古屋消防音楽隊の演奏による入場行進・国歌斉唱を行った。これらの実施により、当初は大会終了時間が遅れる事が懸念されていたが、東海ブロックのスタッフの士気に支えられ、予定どおりのスケジュールで実施された。

大会の企業協賛・協力については依然厳しい状況が続いている。新たな関係を構築するには、企業広告以外の価値観を築く必要が求められており、引き続き課題となった。

大会名	期日	会場・チーム数
第4回全日本ドッジボール選手権 第23回全日本ドッジボール選手権 全国大会	2013/8/24 2013/8/25	会場 東京体育館 予選参加チーム 863 チーム 全国大会参加チーム 92 チーム
第4回春の全国女子小学生ドッジボ ール選手権全国大会 第23回春の全国小学生ドッジボー ル選手権全国大会	2014/3/15 2014/3/16	会場 日本ガイシホール 予選参加チーム 916 チーム ブロック大会参加チーム 350 チーム 全国大会参加チーム 64 チーム

2. 競技委員会

主催大会では競技運営を円滑に行うと共に、ルールの徹底、審判員の資質向上のため諸施策を実行した。常任委員会では審判員育成課題等、競技全般に関し情報交換、研究、検討を行い、全国大会時における審判クリニックでは各地域から派遣される審判員を通じ全国への周知を図った。

①B級公認審判員認定講習会

開催ブロック	開催日	開催場所	受験者	合格者
北海道	2014/2/11	北海道 札幌市スポーツ交流施設 コミュニティドーム	2	1
東北	2013/9/22	福島県 本宮市役所仁井田地区公民館 ／まゆみ小学校体育館	4	2
関東	2013/9/22	埼玉県 さいたま市立徳力小学校	16	3
北信越	2013/10/20	富山県 富山市立山室小学校	10	2
東海	2013/9/29	愛知県 名古屋市立港南中学校	13	2
関西	2013/9/23	大阪府 大阪市立東淡路小学校	12	7
中国	2013/6/23	広島県 廿日市市立平良小学校	9	4
四国	2013/7/7	徳島県 八万町八万コミュニティセンター	8	0
	2013/12/8	愛媛県 県立武道館研修室 松山市立さくら小学校体育館	9	4
九州	2013/6/23	福岡県 アクシオン福岡 会議室・サブアリーナ	10	5
計			93	30

合格者数は例年並みで安定しているが、半数近くを占める再チャレンジの受験者に関して、前回受験後の是正(フィードバック)及び対策他が効果的に実施されていない傾向が伺えた。

次年度からは、中央研修会等を通じ受験準備段階における事前研修の方法や指導内容面に関する見直し(精査)を図り、また、指導ポイント要領の伝達を実施すると共に受験者本人の努力(向上心)を踏まえた上での推薦(見極め)を行なう様、確認を行った。

②審判員中央研修会(スポーツ振興くじ助成事業)

開催ブロック	開催日	開催場所	参加者
北海道	2013/11/30	北海道江別市 北海道立野幌総合運動公園体育館	10

東北	2013/11/16・17	宮城県仙台市 仙台市役所若林区市民センター 仙台市立七郷小学校	15
関東	2013/10/26・27	千葉県船橋市 船橋市青少年会館	30
北信越	2013/10/26・27	富山県射水市 射水市小杉勤労青少年ホーム 小杉町役場 町民体育館	19
東海	2013/12/7・8	愛知県一宮市 アイプラザ一宮(一宮勤労福祉会館)	25
関西	2013/11/9・10	大阪府吹田市 北千里市民体育館	17
中国	2013/9/14・15	広島県広島市 東区スポーツセンター 西区スポーツセンター	17
四国	2013/11/30 12/1	高知県高知市 高知市立一ツ橋小学校 高知市立初月小学校	27
九州	2013/10/5・6	熊本県熊本市 ホテル熊本テルサ 熊本市東部交流センター体育館	29
計			189

4年目の事業となるが、前年とほぼ同じ参加者数となった。参加者からは継続して開催を希望する意見が多く、今後も一定の需要があることが予想される。グループ討議で集めた意見ならびに参加者アンケートに伴う要望(ニーズ)等を基にカリキュラム及び科目を吟味し、さらに内容の充実を目指すことを確認した。

開催準備に関しては、日程が重なってしまい派遣講師の選定に苦慮する形となった。今後は早期にスケジュール確認を行うことで改善を図る事とした。

3. 普及委員会

幼児・親子を対象として体力向上、親子のコミュニケーションを図る活動として「おやこドッジすくうる」を行った。また並行して、公認指導者制度の構築に向け集合学習①として開催できるよう、指導委員会と連携を図りながらマニュアル作成に取り組んだ。

おやこドッジすくうる(スポーツ振興くじ助成事業)

開催ブロック	開催日	開催場所	参加者(親子)
北海道	2013/11/10	北海道 恵庭市立若草小学校	15組
東北	2013/10/27	福島県 南相馬市立八沢小学校	18組
関東	2013/11/10	群馬県 伊勢崎市立境小学校	10組
北信越	2013/10/14	石川県 金沢教育プラザ富樫体育館	35組
東海	2013/10/6	三重県 木曾岬町体育館	15組
関西	2013/9/14	滋賀県 野洲児童館	14組
中国	2013/11/10	島根県 松江市立城北小学校	18組
四国	2013/12/15	高知県 高知市総合体育館	18組
九州	2013/11/4	福岡県 筑紫郡西スポーツセンター	18組
計			161組

2012年度よりおやこドッジすくうると名称を変更し開催している。教室では参加児童へ簡単なボール遊びを交えた基本技術の指導を行うことで、ボールの投げ方や捕り方、かわし方の上達を図った。参加者の反応は好評で、親が積極的にこどもにふれあいを持つ機会としても最適な活動となった。

また、公認指導者を養成するための取り組みとして本事業を必須の単位と定め、どのように教室を運営していけばよいかを学ぶ機会を提供した。各領域のポイントを絞った計画を立てることで、実際に年齢の違う子どもたちに対して発達段階に応じた対応をとることができた。

教室のマニュアルはほぼ固まり、2014年度からは都道府県協会主催事業に移行していくことが決定している。今後の普及委員会としては、本事業を通じてドッジボールに興味を持った子どもと、地域で活動中のチームを結び付けるための次のステップの整備を目指す。

4. 指導委員会

ドッジボールを楽しむ子供から大人まで、環境や目的に合わせ適切なアドバイスや練習を行える指導者の育成を目指し、2013年度より新たに創設した。

公認指導者制度は日本体育協会の趣旨に沿って構築を進めているが、まずは現状の主な年齢層である小学生登録チームの監督・コーチへ参加を促し、ブロック単位で講習会を開始した。

指導者講習会（集合学習②・スポーツ振興くじ助成事業）

開催ブロック	開催日	開催場所	参加者
北海道	2013/12/22	北海道恵庭市 恵庭市立若草小学校	7
東北	2013/11/30・12/1	宮城県仙台市 ベルサンピアみやぎ泉	49
関東	2014/2/22・23	茨城県水戸市 水戸市立三の丸小学校	81
北信越	2013/11/9・10	新潟県三条市 厚生福祉会館	28
関西	2013/12/7・8	大阪府吹田市 北千里体育館	12
中国	2013/11/16・17	広島県山県郡北広島町 アザレア千代田	25
四国	2013/10/26・27	香川県高松市 香川総合体育館 仏生山公園体育館	25
計			169

2014年度からの実施を予定している東海ブロックと、天候悪化により中止となってしまった九州ブロックを除く7ブロックで開催した。

個人の偏った思い込みや暴力に頼らない指導法を身に付けた指導者育成に関しては、ドッジボールに限らず、全ての競技スポーツ団体にとっての大きな課題であり、中には未だ制度の必要性に疑問を持つ声さえ聞かれる。参加者・講師・他の委員会はもとより、外部団体の経験者の意見等も受け入れながら整備を進める事を確認した。

5. 事業委員会

①シニアチャンピオンシップ（スポーツ振興くじ助成事業）

開催ブロック	開催日	開催場所	参加チーム
北海道	2013/8/18	北海道江別市 北海道立野幌総合運動公園総合体育館	19

関東	2013/10/20	埼玉県久喜市 久喜市総合体育館	27
北信越	2013/8/4	長野県松本市 松本平広域公園体育館	21
東海	2013/9/22	愛知県一宮市 一宮市総合体育館	19
関西	2013/10/19	大阪府豊中市 豊中市立千里体育館	14
九州	2013/9/16	福岡県筑後市 福岡県営筑後広域公園体育館	20
計			120 チーム

開催3年目となるシニアチャンピオンシップは120チームが参加した。

2012年度はカテゴリーが統一されていなかったため、参加チームの技量の差が開き過ぎてしまっていた。そこで、2013年度は競技性を求めるファイター・エリートと、レクリエーションとして楽しみながら参加を希望するふれあいの部に分け、使用球も分ける事とした。一定の効果はあったものの、依然として、ふれあいの部であっても小学校時代の経験者が参加するというケースが多く見られた。未経験者の参加には引き続き工夫が必要であり、今後の課題とした。

一方、ファイターの部は必然的に日本代表や全日本選手権を目指す選手層が集まり、更なる競技レベルの向上が見込まれるため、2014年度からは正式に全日本選手権の予選として開催する事を計画している。

②2013J.D.B.A.全日本選手権兼第1回アジアカップ

小学生の全国大会経験者からはたびたび中学生以降の同様の大会実現が要望されていたが、協会発足より23年目を迎えようやく開催を迎えた。また、一昨年度よりアジア連盟加盟4か国による初のアジアカップ日本開催の計画も進めていたため、この機会に視野を大きく広げることを目指し、同時開催とした。

アジアカップにおいては国際的な競技会の経験が無い事、全日本選手権においてはまだ普及状況を見極められていない段階であった事などから、運営に関しては手探り状態であったが、アジアカップにおいては加盟4ヶ国全カテゴリーの参加、全日本選手権においては東北から九州までの広地域でのエントリーとなった。

準備が不足していた点は改めて反省しつつも、2014年度は各ブロックでの予選実施と東京体育館での選手権開催を予定しており、これまで独自の活動を続けてきた学生社会人チームの成果を発揮できる大会となるよう計画を進めることとした。

大会名	期日	会場・チーム数
2013J.D.B.A.全日本選手権 兼 第1回アジアカップ	2013/12/14 ～12/15	会場 新宿コズミックセンター 中央区総合スポーツセンター スクエア荏原 全日本選手権参加チーム 16チーム アジアカップ参加協会 日本・台湾・韓国・香港協会 各4カテゴリー 計16チーム

6. ブロック委員会

これまで各事業のブロック内での取りまとめを主に担っていたが、各種助成事業を通じて専門委員会ごとの組織や機能が定まりつつある中で、ブロック委員会としての当初の役割は果たしたと考え、2013年度をもって委員会組織を解消することとした。

但し、各ブロック連絡会内の組織における会長としての役割は今後も継続する。

7. 総務委員会

専門委員会がそれぞれ主体となる事業が増加しているだけでなく、事業間の連携が重要となる機会が増える事が見込まれるため、2012年度に引き続き4月に各委員会の委員を集めて総会を開催した。また、これまでの各種制度や競技会に関する手続き等の再確認と加盟団体の質問・疑問への対応、また活動が盛んな地域との情報共有の機会を設けるために、6月に加盟団体総会を開催した。

会議の開催状況

①総会

会議名	開催日	主な審議事項
委員総会	2013/4/21・22	委員会別・ブロック別各主管事業計画
加盟団体総会	2013/6/23	中期事業計画・2013年度事業計画説明 各種手続き・新規制度説明、加盟団体活動情報交換

②評議員会

会議名	開催日	主な審議事項
定時評議員会	2013/6/22	2012年度事業報告・収支決算 次期役員承認
評議員理事懇談会	2014/2/16	協会活動全般の説明・2014年度事業計画

③理事会

会議名	開催日	主な審議事項
第1回	2013/4/14	役員変更、専門委員会の増設、委員総会準備
第2回	2013/5/26	2012年度事業・収支報告、加盟団体総会準備、 2014全国大会日程会場、toto助成事業、JKA補助事業
第3回	2013/7/20	理事長・副理事長選任、各委員会担当理事
第4回	2013/9/7・8	助成事業・アジアカップ進捗状況、協賛制度統一 夏全国大会総括、
第5回	2013/11/9・10	春全国大会予選開催方法、個人登録制度・公認指導者制度
第6回	2014/2/8	2014年度事業計画、ブロック委員会廃止、新規加盟団体承認、2015年度春全国大会申請、ユニフォーム規定正式運用

8. その他

・2013 スポーツ祭り協力

文部科学省・(独)日本スポーツ振興センター・(公財)日本体育協会等主催により10月14日に国立スポーツ科学センター及び周辺施設で開催された、平成25年度「体育の日」中央記念行事 スポーツ祭り2013へ、小学生対象体験スポーツの1種目として協力した。

主催者側の事情による実施種目の変更のため直前の参画決定であったが、募集定員上限の100名に達した。日本代表選手とハンディキャップをつけた対戦等の企画は大いに盛り上がりを見せ、やはり小学生には最もなじみの深いスポーツであることを改めて認識した。

第 5 期

計 算 書 類

(貸借対照表、損益計算書、財産目録及び個別注記表)

〔 平成 25 年 4 月 1 日から
平成 26 年 3 月 31 日まで 〕

一般財団法人 日本ドッジボール協会

貸借対照表

2014年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	5,731,689	6,603,440	△ 871,751
商品	2,286,196	1,760,570	525,626
前渡金	202,230	962,900	△ 760,670
未収入金	5,532,641	3,244,847	2,287,794
流動資産合計	13,752,756	12,571,757	1,180,999
2. 固定資産			
(1) その他固定資産			
工具器具備品	1	1	0
ソフトウェア	1,033,200	1,008,350	24,850
保証金	414,000	1,127,250	△ 713,250
その他固定資産合計	1,447,201	2,135,601	△ 688,400
固定資産合計	1,447,201	2,135,601	△ 688,400
資産合計	15,199,957	14,707,358	492,599
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,413,054	2,073,675	339,379
前受金	3,272,500	594,850	2,677,650
預り金	66,580	59,916	6,664
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税	247,200	366,700	△ 119,500
流動負債合計	6,069,334	3,165,141	2,904,193
負債合計	6,069,334	3,165,141	2,904,193
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	9,130,623	11,542,217	△ 2,411,594
正味財産合計	9,130,623	11,542,217	△ 2,411,594
負債及び正味財産合計	15,199,957	14,707,358	492,599

損益計算書（正味財産増減計算書）

2013年 4月 1日から2014年 3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益			
事業収益	14,355,211	9,223,400	5,131,811
登録料収益			
チーム登録料収益	5,502,000	5,910,000	△ 408,000
更新料収益			
審判更新料収益	13,884,000	14,250,000	△ 366,000
認定料収益			
審判認定料収益	3,810,000	4,038,000	△ 228,000
受取会費			
受取役員等会費	740,000	600,000	140,000
加盟協会料収益			
加盟協会料収益	2,350,000	2,350,000	0
スポンサー料収益			
スポンサー料収益	6,453,750	12,855,000	△ 6,401,250
販売収益			
販売収益	7,724,200	1,898,400	5,825,800
検定料収益			
公認球検定料収益	2,471,772	2,034,000	437,772
手数料収益			
手数料収益	2,001,940	2,268,674	△ 266,734
受取補助金等			
助成金収益	10,679,727	8,818,500	1,861,227
雑収益			
雑収益	562,283	606,186	△ 43,903
経常収益計	70,534,883	64,852,160	5,682,723
(2) 経常費用			
事業費			
謝金	2,861,741	3,164,758	△ 303,017
旅費交通費	7,796,692	7,861,513	△ 64,821
宿泊費	4,617,312	1,033,465	3,583,847
事業支援費	14,324,600	13,819,000	505,600
貸借リース料	5,526,373	3,092,551	2,433,822
制作費	4,444,949	3,643,977	800,972
用具費	1,303,684	1,381,166	△ 77,482
通信運搬費	1,216,469	1,058,026	158,443
印刷製本費	3,888,259	1,700,403	2,187,856
消耗品費	2,528,528	0	2,528,528
雑費	1,405,535	2,263,214	△ 857,679
管理費			
給与手当	9,127,146	8,712,036	415,110
通勤費	534,130	549,620	△ 15,490
法定福利費	344,967	80,528	264,439
福利厚生費	127,615	104,700	22,915
賃借料	3,617,619	3,619,488	△ 1,869
リース料	424,620	424,620	0
旅費交通費	1,805,450	5,642,380	△ 3,836,930
通信費	624,777	555,412	69,365
運賃	332,741	231,463	101,278
発送業務委託費	1,695,102	979,676	715,426
消耗品費	695,842	447,661	248,181
顧問料	1,000,000	1,000,000	0
業務委託費	263,340	269,300	△ 5,960
会議費	59,878	290,631	△ 230,753
接待交際費	311,548	374,131	△ 62,583
水道光熱費	354,410	309,702	44,708
諸会費	608,583	62,000	546,583
租税公課	291,700	568,600	△ 276,900
支払助成金	150,000	100,000	50,000
減価償却費	342,650	281,404	61,246
雑費	250,217	442,298	△ 192,081
経常費用計	72,876,477	64,063,723	8,812,754
当期経常増減額	△ 2,341,594	788,437	△ 3,130,031
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 2,341,594	788,437	△ 3,130,031
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,411,594	718,437	△ 3,130,031
一般正味財産期首残高	11,542,217	10,823,780	718,437
一般正味財産期末残高	9,130,623	11,542,217	△ 2,411,594
II 正味財産期末残高	9,130,623	11,542,217	△ 2,411,594

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
商品……最終仕入原価法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産……建物は定額法、建物以外は定率法
無形固定資産……定額法
- (3) リース取引の処理方法
所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっている。
- (4) 消費税等の会計処理
税込方式で計上している。

2. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高(直接法により減価償却を行っている場合)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
工具器具備品	10,011,600	10,011,599	1
ソフトウェア	1,774,500	741,300	1,033,200
合 計	11,786,100	10,752,899	1,033,201

3. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

補助金等の名称	交付者	前期末 残高	当期増加額	当期減少額	当期末 残高	BS上の 記載区分
助成金						
加盟団体助成金	日レク	0	100,000	100,000	0	—
スポーツ奨励普及事業助成金	スポ安	0	700,000	700,000	0	—
スポーツ振興基金助成金	スポ振興	0	1,870,000	1,870,000	0	—
公益事業振興補助金	JKA	0	1,647,727	1,647,727	0	—
スポーツ振興くじ助成金	toto	0	6,362,000	6,362,000	0	—
合 計		0	10,679,727	10,679,727	0	

財産目録

2014年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目		金 額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金手許有高		341,109	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店	2,716,528	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(賛助会費)	2,544	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(toto)	3,774	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(JKA)	1,346,266	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(ｽｯ振興)	73	
郵便振替	東京貯金事務センター(審判)	1,055,285	
郵便振替	東京貯金事務センター(積立金)	10,729	
郵便振替	東京貯金事務センター(ｽｯ-ﾀ-)	90,010	
郵便振替	東京貯金事務センター(祝賀会)	34,790	
郵便振替	東京貯金事務センター	130,581	
商品	ルールブック、賞状、記念誌	2,286,196	
前渡金	東京体育館、ANA	202,230	
未収入金	toto助成金、春大会分他	5,532,641	
流動資産合計			13,752,756
2. 固定資産			
(1) その他固定資産			
工具器具備品	大会用コート	1	
ソフトウェア	システム開発費	1,033,200	
保証金	事務局	414,000	
その他固定資産合計		1,447,201	
固定資産合計			1,447,201
資産合計			15,199,957
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	春大会分他	2,413,054	
前受金	2014年度協賛金、会費	3,272,500	
預り金	源泉税他	66,580	
未払法人税等		70,000	
未払消費税		247,200	
流動負債合計			6,069,334
負債合計			6,069,334
正味財産			9,130,623

貸借対照表総括表

2014年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目	一般会計	特別会計(大会)	特別会計(toto)	合 計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	5,731,689	0	0	5,731,689
商品	2,286,196	0	0	2,286,196
前渡金	131,580	70,650	0	202,230
未収入金	1,288,330	1,812,061	2,432,250	5,532,641
流動資産合計	9,437,795	1,882,711	2,432,250	13,752,756
2. 固定資産				
(1) その他固定資産				
工具器具備品	0	1	0	1
ソフトウェア	1,033,200	0	0	1,033,200
保証金	414,000	0	0	414,000
その他固定資産合計	1,447,200	1	0	1,447,201
固定資産合計	1,447,200	1	0	1,447,201
資産合計	10,884,995	1,882,712	2,432,250	15,199,957
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	559,814	1,801,920	51,320	2,413,054
前受金	3,272,500	0	0	3,272,500
預り金	66,580	0	0	66,580
未払法人税等	70,000	0	0	70,000
未払消費税	247,200	0	0	247,200
元入金	△ 16,234,694	11,900,435	4,334,259	0
流動負債合計	△ 12,018,600	13,702,355	4,385,579	6,069,334
負債合計	△ 12,018,600	13,702,355	4,385,579	6,069,334
III 正味財産の部				
1. 一般正味財産	22,903,595	△ 11,819,643	△ 1,953,329	9,130,623
正味財産合計	22,903,595	△ 11,819,643	△ 1,953,329	9,130,623
負債及び正味財産合計	10,884,995	1,882,712	2,432,250	15,199,957

損益計算書（正味財産増減計算書）総括表

2013年 4月 1日から2014年 3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会


(単位:円)

科 目	一般会計	特別会計(大会)	特別会計(toto)	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
事業収益				
事業収益	4,804,111	7,020,000	2,531,100	14,355,211
登録料収益				
チーム登録料収益	5,502,000	0	0	5,502,000
更新料収益				
審判更新料収益	13,884,000	0	0	13,884,000
認定料収益				
審判認定料収益	3,810,000	0	0	3,810,000
受取会費				
受取役員等会費	740,000	0	0	740,000
加盟協会料収益				
加盟協会料収益	2,350,000	0	0	2,350,000
スポンサー料収益				
スポンサー料収益	2,385,000	4,042,500	26,250	6,453,750
販売収益				
販売収益	7,676,200	48,000	0	7,724,200
検定料収益				
公認球検定料収益	2,471,772	0	0	2,471,772
手数料収益				
手数料収益	1,017,586	984,354	0	2,001,940
受取補助金等				
助成金収益	800,000	3,517,727	6,362,000	10,679,727
雑収益				
雑収益	560,283	2,000	0	562,283
経常収益計	46,000,952	15,614,581	8,919,350	70,534,883
(2) 経常費用				
事業費				
謝金	313,640	723,501	1,824,600	2,861,741
旅費交通費	1,858,882	2,712,740	3,225,070	7,796,692
宿泊費	2,297,011	1,505,903	814,398	4,617,312
事業支援費	14,324,600	0	0	14,324,600
賃借リース料	1,616,390	3,235,771	674,212	5,526,373
制作費	2,012,717	2,292,950	139,282	4,444,949
用具費	121,776	437,293	744,615	1,303,684
通信運搬費	7,920	741,189	467,360	1,216,469
印刷製本費	2,012,009	823,200	1,053,050	3,888,259
消耗品費	1,005,943	1,097,257	425,328	2,528,528
雑費	511,481	449,515	444,539	1,405,535
管理費				
給与手当	5,261,026	3,866,120	0	9,127,146
通勤費	534,130	0	0	534,130
法定福利費	344,967	0	0	344,967
福利厚生費	127,615	0	0	127,615
賃借料	3,617,619	0	0	3,617,619
リース料	424,620	0	0	424,620
旅費交通費	1,805,450	0	0	1,805,450
通信費	624,777	0	0	624,777
運賃	332,741	0	0	332,741
発送業務委託費	1,695,102	0	0	1,695,102
消耗品費	695,842	0	0	695,842
顧問料	1,000,000	0	0	1,000,000
業務委託費	263,340	0	0	263,340
会議費	59,878	0	0	59,878
接待交際費	311,548	0	0	311,548
水道光熱費	354,410	0	0	354,410
諸会費	608,583	0	0	608,583
租税公課	291,700	0	0	291,700
支払助成金	150,000	0	0	150,000
減価償却費	342,650	0	0	342,650
雑費	250,217	0	0	250,217
経常費用計	45,178,584	17,885,439	9,812,454	72,876,477
当期経常増減額	822,368	△ 2,270,858	△ 893,104	△ 2,341,594
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	822,368	△ 2,270,858	△ 893,104	△ 2,341,594
法人税、住民税及び事業税	70,000	0	0	70,000
当期一般正味財産増減額	752,368	△ 2,270,858	△ 893,104	△ 2,411,594
一般正味財産期首残高	22,056,073	△ 9,548,785	△ 965,071	11,542,217
一般正味財産期末残高	22,808,441	△ 11,819,643	△ 1,858,175	9,130,623
II 正味財産期末残高	22,808,441	△ 11,819,643	△ 1,858,175	9,130,623

監査報告書

一般財団法人
日本ドッジボール協会
評議員・理事 各位

2014年 6月 6日
一般財団法人 日本ドッジボール協会

監事 畑 敬 

私は、一般財団法人日本ドッジボール協会の、2013年度（自2013年4月1日至2014年3月31日）の会計並びに業務について監査を行い、次の通り報告します。

記

1 監査方法の概要

- ① 会計監査については、帳簿及び関係書類を調査し、担当役員及び事務職員に質問を行い、貸借対照表、損益計算書及び財産目録の計算書類の正確性を検討した。
- ② 業務調査については、必要書類を調査し、かつ担当役員及び事務職員に質問を行うなど必要と思われる監査手続きを実施して、会計遂行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- ① 上記会計の計算書類は、会計帳簿の金額と一致し、一般財団法人日本ドッジボール協会の2014年3月31日現在の財産状態及び同日を以って終了する事業年度の損益を正しく示しているものと認める。
- ② 事業及び会計報告書の内容は、妥当なものと認める。
- ③ 理事の会計執行は公正に運営されており、法令及び一般財団法人日本ドッジボール協会定款に照らし、特に指摘すべき事項はない。

以上

監査報告書

一般財団法人
日本ドッジボール協会
評議員・理事 各位

2014年 6月 5日
一般財団法人 日本ドッジボール協会

監事

山田



私は、一般財団法人日本ドッジボール協会の、2013年度（自2013年4月1日至2014年3月31日）の会計並びに業務について監査を行い、次の通り報告します。

記

1 監査方法の概要

- ① 会計監査については、帳簿及び関係書類を調査し、担当役員及び事務職員に質問を行い、貸借対照表、損益計算書及び財産目録の計算書類の正確性を検討した。
- ② 業務調査については、必要書類を調査し、かつ担当役員及び事務職員に質問を行うなど必要と思われる監査手続きを実施して、会計遂行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- ① 上記会計の計算書類は、会計帳簿の金額と一致し、一般財団法人日本ドッジボール協会の2014年3月31日現在の財産状態及び同日を以って終了する事業年度の損益を正しく示しているものと認める。
- ② 事業及び会計報告書の内容は、妥当なものと認める。
- ③ 理事の会計執行は公正に運営されており、法令及び一般財団法人日本ドッジボール協会定款に照らし、特に指摘すべき事項はない。

以上